

長崎県長崎市手熊町方言の待遇表現

愛宕 八郎康隆

1. はじめに

- (1) 調査対象地：長崎市手熊町は、旧長崎県西彼杵郡福田村字手熊郷であって、現在長崎市に属している。市の西端部に位置し、集落は五島灘に面していて気候は比較的温暖である。生業は、自家用の米・野菜作りや、みかん作りに加えて、一方で市街地への会社勤めという兼業生活者が多い。商業、土木建築業を営むところが数軒みられる。世帯数は152、人口は501人（男230人、女271人、平成8年1月末現在）で、交通は、長崎市街地へのバス便が、日に20数便（所要時間、約30分）あり、比較的便利である。宗教は、全戸、浄土真宗である。
- (2) 調査年月日：1997年2月16日
- (3) 話者：松村キミエさん 1934年生（63歳） 農業
- (4) 調査者・調査場所：愛宕 八郎康隆 松村キミエさん宅応接室
- (5) 調査方法：当該調査票に基づいた質問調査を主に、自然傍受法の調査をも生かした。
- (6) 表記方法：方言事象を、片かな（音声記号の代用）で表記する。高音部に棒線を施す。文例表示では、冒頭に○印を用い、話者の説明は、（ ）で示す。

II. 調査結果

1. 尊敬表現

1-1 対者敬語

- (1) A お前は $\overline{\text{ウチー}}$
元気かね $\overline{\text{タッシャカ}} \overline{\text{ネ}}$
B あなたは $\overline{\text{ワガ}}$
元気かね $\overline{\text{タッシャカ}} \overline{\text{ネー}}$
C あなたは $\overline{\text{オマエ}}$
元気かね $\overline{\text{タッシャカッタ}} \overline{\text{ネ}}$
○ $\overline{\text{オマエ}}$ $\overline{\text{タッシャカッタ}} \overline{\text{ネ}}$ 。の「 $\overline{\text{オマエ}}$ 」は、係助詞「は」は無形であるが、「お前は」に相当する。A、Bが、「 $\overline{\text{タッシャカ}}$ 」形を用いているのに対して、Cでは、「 $\overline{\text{タッシャカッタ}}$ 」とテンスを変えて、一段上の待遇を表現していると解される。
- (2) A あしたは家にいるか ○ $\overline{\text{アシタ}}$ $\overline{\text{ワガエ}}$ $\overline{\text{オン}}$ ナ。
B あしたは家にいるか ○ $\overline{\text{アシタ}}$ $\overline{\text{ワガエ}}$ $\overline{\text{オン}}$ ノワイ。
C あしたは家にいるか ○ $\overline{\text{アシタ}}$ $\overline{\text{ワガエ}}$ オン ノワイ。
- (3) A あした行くか ○ $\overline{\text{アシタ}}$ $\overline{\text{イクナー}}$ 。

- B あした行きますか ○アシタ イク ネー。
- C あした行きますか ○アシタ イク ノワイ。
- (4) A 温泉に行かないか ○オンセンニ イカン ナー。
- B 温泉に行かれませんか ○オンセンニ イカン ネー。
- C 温泉に行かれませんか ○オンセンニ イカン ノワイ。
- (5) A しますか スン ネー
- B されますか キバン ノワイ
- (6) A 見ましたか ミタ ネー
- B 見ましたか ミタ ノワイ
- (7) A ゆうべは何時に寝ましたか ○ユーベ ナンジン ネタ ノワイ。
- B ゆうべは何時に寝ましたか ○ユーベ ナンジン ネタ ノワイ。
- C 寝てください ネチーレー
- (8) A どこに行っているか ○ドケー イキヨットカー。
- B どこに行っていますか ○ドケー イキヨットネー。
- C どこに行っていますか ○ドケー イキヨットノワイ。
- (9) A どうぞ食べてくれ ○サー クエー。
- B どうぞ食べてください ○サー タベン ネー。
- C どうぞ食べてください ○サー タベチ クンチハレー。
- (10) A その写真を私に見せてくれないか ○ソン シャシンバ ウチン ミセロ。
- B その写真を私に見せてくださいますか ○ソン シャシンバ ウチン ミセチクレン ネー。
- C その写真を私に見せてくださいますか ○ソン シャシンバ ウチン ミセチクンチーレ。
- (11) A あしたは家に居るだろう ○アシタ ワガエニ オロ ダー。(オロ ダーのところを、オッジャローとも言うが、これは前者より少しい言い方になる)
- B あしたは家に居るだろう ○アシタ ワガエニ オレ スルマー カ。
- C あしたは家におられるでしょう ○アシタ ワガエニ オレ スルマー カノワイ。
- (12) A 居なかった オラジャッタ
- B 居なかった オラジャッタ
- C 居なかった オラジャッタ、ルスジャッタ
- (13) A そう言った ソゲン ユータ
- B そう言った ソゲン ユートッタ
- (14) A 今そこに行っていた ○イマ ソゲー イタチョッタ トダー。
- B 今そこに行っておられた ○イマ ソゲー イタチョッタ トバイ。

- C 今そこに行っておられた ○イマ ソゲー イタチョッタ トバルマイ。
「トバルマイ」は、「トバイ」より上に立つ文末詞。
- (15) A 友達が来ている ○トモダチノ キチョッ トバイ。
B 来ている キチョッ
C 来ている キチョッ
- (16) A 仕事をしている シゴトバ ショッ あるいはキバリョッを年長者間で用いる。
B 仕事をしている シゴトバ ショッ
- (17) A 見せてもらった ミセチ モロータ
B 見せてもらった ミセチ モロータ
C 見せてもらった ミセチ モロータ A、B、Cとも同一形で表現する。
- (18) A 見せてくれた ミセチ クレタ
B 見せてくれた ミセチ クレタ
C 見せてくれた ミセチ クレタ A、B、Cとも同一形で表現する。
- (19) A 私にくださった オレー クレチ バルマイ 「バルマイ」は文末詞
B 私にくださった オレー クレチ バルマイ A、B同一形で表現する。
- (20) A いただいた モロタ
B いただいた モロタ A、B同一形で表現する。

II. 謙譲表現

II-1 謙譲表現

- (21) A 私も オルモ (男性はオレモ)
B 私も オルモ (男性はオレモ)
C 私も オルモ (男性はオレモ)
- (22) A 十分に食べました ○ヨンニュー ヨバレタ バイ。
B 十分に食べました ○ヨンニュー ヨバレタ バルマイ。
- (23) A 持ちましょう モチ クリョー
B 持ちましょう モチ クリョー A、B同一形で表現する。
- (24) A 待たせたね ○マタセタ ナー。
B お待たせしました ○マタセタ ネー。
C お待たせしました ○マタセタ ノワイ。
- (25) A 駅で待っているよ ○エキデ マッチョルシェン ナー。
B 駅で待っていますよ ○エキデ マッチョルシェン ネー。
C 駅で待っていますよ ○エキデ マッチョルシェン ノワイ。
- (26) A 言ってくれ ユーチョイチ クレン ネー
B 言ってくれ ユーチョイチ クンナレー。

- C 言ってくれ ユー^チョイ^チ クン^チレー。
- (27) A これをやろう ○コイ^バ クル^ッテー。
- B これをあげましょう ○コイ^バ ヤッ^テー ネー。
- C これをあげましょう ○コイ^バ ヤッ^テー ノ^ワイ。

II-2 身内敬語

- (28) A 買ってやった コー^チ クレ^タ
- B 買ってやった コー^チ クレ^タ
- C 買ってやった コー^チ クレ^タ A、B、C同一形で表現する。ただ、使用文末詞は、A、Bでは、「ト^バイ」を用いるのに対して、Cでは、「ト^バル^マイ」を使用し、差異が見られる。
- (29) A 主人はもう帰っている ○エン^モン^ナ モー カエ^ッチ キ^チョ^ッ ト^バイ。
- B 主人はもう帰っています ○エン^モン^ナ モー カエ^ッチ キ^チョ^リマ^ス ト^バル^マイ。

III. 丁寧表現

- (30) A 行くよ ○イ^ク ヨー。
- B 行きます ○イ^ク テー。(Aよりは、敬語的な言い方)、「テー」は、「ト^ヨ」の変化形か。
- (31) A 寒いね サム^カ チー
- B 今日は寒いね ○キ^ュー^ワ サム^カ ネー。
- C 今日は寒いですね ○キ^ュー^ワ サム^カ ノ^ワイ。
- (32) A 居るよ ○オル ヨー。／○オル バイ。後者は強調的な言い方。
- B 居ます ○オ^ッ ト^バイ。(オル バイ。に比べて、敬語的である。)
- (33) A よかったねえ ヨカ^ッタ チー
- B よかったですねえ ヨカ^ッタ ネー
- C よかったですねえ ヨカ^ッタ ノ^ワイ
- (34) A そうか ○ソー チー。／○ソー タイ^チー。／○ホ^ンナ コト^チー。／○ホ^ント^チー チー。この順に、うなづきの度合いが、少しずつ強くなる。
- B そうですか ○ソー ネー。／○ソー タイ^ネー。
- C そうですか ○ソー ネー。

IV. 人間関係に応じた待遇表現

IV-1 特定表現の待遇表現

- (35) その角を曲がって右へ行くと～、マガッテモラッテ～の言い方はしない。
- ソ^ン カ^ドバ マガ^ッテ ミ^ギサン イク^ト～。

(36) とんでもない ○ゾーダンジャ ナカ。

Ⅳ-2 多人数場面の待遇表現

(37) 村(町内)の寄り合いで、何かの世話役を頼まれ、それを引き受けるときはどのように言いますか ○シーキリーロ ワカランパッテ。やり果せるかどうかわからないけれども。の意

(38) 今度の旅行には参加者が少ないので、皆さん参加してほしい ○コンドノ リョコ
ーネ サンカシャノ スクナカシェン デクッダケ サンカシテ クレン ネ
ー。

Ⅳ-3 位相による待遇表現

(39) 1. お寺の住職さん

A ○オハヨー ゴザイマス。

B ○ドチラニ イカレマス カ。

2. 校長先生

A ○オハヨー ゴザイマス。

B ○ドチラニ イカレマス カ。

3. 見知らぬ年配の男性

A 会釈ですませる

B 尋ねない

4. 見知らぬ年配の女性

A 会釈ですませる

B 尋ねない

5. 顔見知りの年上の男性

A ○オハヨー ゴザイマス。

○ハヨ ノワイ。(親しさのある場合)

B ○ドチラニ イク トネー。

6. 顔見知りの年上の女性

A ○オハヨー ゴザイマス。

○ハヨ ノワイ。(親しさのある場合)

B ○ドチラニ イク トネー。

7. 10歳ほど年下の見知らぬ男性

A 会釈ですませる

B 尋ねない

8. 10歳ほど年下の見知らぬ女性

A 会釈ですませる

B 尋ねない

9. 同級生の男性

A ○オハヨ一。

B ○ドコイキ 一ネ一。に続けて、○ドゲン シトッ 下ネ一。と表現する。

10. 同級生の女性

A ○オハヨ一。

B ○ドコイキ 一ネ一。に続けて、○ドゲン シトッ 下ネ一。や○ゲンキカッ
タ 一ネ一。とか、○タッショ シトッタ 一ネ一。などと表現する。

11. 10歳ほど年下の顔見知りの男性

A ○オハヨ一。

B ○ドケー イク 下ネ一。

12. 10歳ほど年下の顔見知りの女性

A ○オハヨ一。

B ○ドケー イク 下ネ一。

13. 近所の中学生の男の子

A ○オハヨ一。

B 尋ねない

14. 近所の中学生の女の子

A ○オハヨ一。

B 尋ねない

Ⅲ. 総括

(1) まず注目されるのは、当方言の敬語表現の簡素さである。簡素さの第一のこととして、調査票中、A・Bないしは、A・B・Cと、待遇位を異にする設定がしてあり、それらに見合う表現が求められているが、当方言では、A・Bないしは、A・B・Cを、まったく同一形で表現する事象の多いことが注目される。

すなわち、(12)のA・B・Cは、すべて「オラジャッタ」であり、(15)のA・B・Cは、すべて「キチヨッ」であり、(17)もA・B・C同形の「ミセチ モロータ」である。さらに、(18)のA・B・Cは、すべて「ミセチ クレタ」であり、(19)のA・Bも同形の「オレー クレチ バルマイ」であり、(21)のA・B・Cも、すべて「オルモ」である。ほかに、同一形を見せるものに、(23)のA・Bの「モチ クリョ一」がある。

(2) 当方言の敬語表現の簡素さの第二のこととして、敬語助動詞、敬語動詞の乏しさが目立つ。全調査を通じて、表れた敬語助動詞、敬語動詞事象は、以下のものにすぎない。しかも、「ゴザイマス」の4回、「イカレマス」、「ヤッデー」<ヤル トヨの変化形か>などの2回を除いて、すべて1回使用である。

- (7) 「ネ $\overline{\text{チーレ}}$ 」 (寝なれ)
- (9) 「タ $\overline{\text{ベチ}}$ クン $\overline{\text{チハレー}}$ 」 (食べてください)
- (10) 「ミ $\overline{\text{セチ}}$ クン $\overline{\text{チーレ}}$ 」 (見せてくださいますか)
- (22) 「ヨ $\overline{\text{バレタ}}$ 」 (食べました)
- (27) 「ヤ $\overline{\text{ッテー}}$ 」 (あげましょう)
- (39) 「ゴ $\overline{\text{ザイマス}}$ 」 (ございます)
- (39) 「イ $\overline{\text{カレマス}}$ 」

(3) (2)に見たように敬語助動詞、敬語動詞の乏しさ(→敬語表現の簡素さ)を補っているのは、一連の文末詞の活躍であり、当方言の一特色をなしている。

調査票におけるA・BないしはA・B・Cは、待遇位に見合う表現を求めているものであるが、当方言にあっては、A・B同一形、A・B・C同一形のものが総括(1)で指摘したように多く見られた。

ところで、このような事態とともに注目すべきものに、敬語助動詞や敬語動詞に依らない、大きく一連の文末詞(ナー、ネー、ノワイ、バルマイ、トバルマイ、トター、トバイなど)に依拠した敬語表現(待遇表現)がある。

以下に、主要な例を挙げてみたい。

- (3) A○ア $\overline{\text{シタ}}$ イ $\overline{\text{ク}}$ ナー。
B○ア $\overline{\text{シタ}}$ イ $\overline{\text{ク}}$ ネー。
C○ア $\overline{\text{シタ}}$ イ $\overline{\text{ク}}$ ノワイ。
- (4) A○オ $\overline{\text{ンセンニ}}$ イ $\overline{\text{カン}}$ ナー。
B○オ $\overline{\text{ンセンニ}}$ イ $\overline{\text{カン}}$ ネー。
C○オ $\overline{\text{ンセンニ}}$ イ $\overline{\text{カン}}$ ノワイ。
- (6) Aミ $\overline{\text{タ}}$ ネー
Bミ $\overline{\text{タ}}$ ノワイ
- (8) A○ド $\overline{\text{ケー}}$ イ $\overline{\text{キヨッ}}$ トカー。
B○ド $\overline{\text{ケー}}$ イ $\overline{\text{キヨッ}}$ トネー。
C○ド $\overline{\text{ケー}}$ イ $\overline{\text{キヨッ}}$ ノワイ。
- (14) A○イ $\overline{\text{マ}}$ ソ $\overline{\text{ケー}}$ イ $\overline{\text{タ}}$ チョッタ トター。
B○イ $\overline{\text{マ}}$ ソ $\overline{\text{ケー}}$ イ $\overline{\text{タ}}$ チョッタ トバイ。
C○イ $\overline{\text{マ}}$ ソ $\overline{\text{ケー}}$ イ $\overline{\text{タ}}$ チョッタ トバルマイ。
- (22) A○ヨ $\overline{\text{ンニ}}$ ヨ $\overline{\text{バレタ}}$ バイ。
B○ヨ $\overline{\text{ンニ}}$ ヨ $\overline{\text{バレタ}}$ バルマイ。
- (24) A○マ $\overline{\text{タセタ}}$ ナー。
B○マ $\overline{\text{タセタ}}$ ネー。
C○マ $\overline{\text{タセタ}}$ ノワイ。

- (25) A ○エキデ マッチョルシェン ナー。
 B ○エキデ マッチョルシェン ネー。
 C ○エキデ マッチョルシェン ノワイ。
- (30) A ○イク ヨー。
 B ○イク テー。
- (31) A サムカ ナー
 B ○キューワ サムカ ネー。
 C ○キューワ サムカ ノワイ。
- (33) A ヨカッタ ナー
 B ヨカッタ ネー
 C ヨカッタ ノワイ

このように、当方言の待遇表現にあっては、敬語助動詞、敬語動詞の乏しさを補っての、一連の文末詞の活躍が注目される。

(あたごはちろうやすたか 活水女子大学)